

関 雅夫さん（平成 23 年 4 月）

カサブランカ便り「第二回、メクネス柔道出張指導報告」

拝啓、時下益々ご清祥の事とお喜び申し上げます。

昨年同様同じ時期に私の所属しているモロッコ王国柔道連盟から、メクネスと言うカサブランカより車で約3時間少々かかる町での第二回目の柔道指導依頼が有り、昨年に引き続き本年も又色々新たな発見等が有りましたのでご報告方々お便り致します。

昨年は、約束では拙宅に午前7時に柔道連盟からの派遣の私を迎えに来る車が2時間遅れの午前9時に来ましたが、本年は午前8時に来ました。相変わらずの「インシャ・アッラー」で有ります。

拙宅を出発して高速道路に入りますと、相変わらず高速道路なのに驚くなかれ、数多くの人達が走っている車の前後を横断している風景は昨年同様全然変わっておらず、又相変わらず高速道路なのに驚くなかれ、車道を馬車がのんびりと走っている風景にも出会いました。高速道路でも車間距離を守る等との感覚は私の事を載せている迎えに来てくれたモロッコ王国柔道連盟のドライバーには丸で有りません。

これはモロッコ国内柔道大会の柔道の試合にも共通している事で有ります。武道で大切な間合いの概念が丸で無い為、驚く無かれ昨年10月に美しい観光都市アガディールで行われた世界柔道ジュニア選手権大会の柔道試合場試合開始線設置を始め、私がモロッコ王国柔道連盟の顧問として出席する柔道大会の試合開始線は私が常に設置しております。モロッコのガムテープはチャチで直ぐ剥がれてしまいますので、私が昨年五月健康診断一時帰国の際に日本から船便で遠路遙々ここモロッコ王国まで送った日本の優秀な青と白のガムテープが大活躍しております。（主審から向かって右側に青、左側に白の開始線を設置します。ちなみに日本で行われる全日本選手権大会等の国内ルールで行われる柔道大会の試合場では主審の右側に赤の開始線を設置します。左側は同じく白の開始線です。）

さて、メクネスに行く途中の眺めは夏の北海道を旅した時のバスツアー旅行を思い出させ、北海道の大地を髣髴とさせる広大な草原を左右に見て車は走って行きます。草原の中には数多くの羊や牛の群れが草を食んでいたります。又レンガを積んで屋根の上に石を載せた、こんな家も有るのかと思う様な住居も散見しました。



講習会の開始時間には間に合わなかったものの、兎も角(4月8日金曜日)無事メクネスに到着し、午前中よりメクネスでの講習会が始まっておりましたが午後からの部を私と私を迎えに来たモロッコ王国柔道連盟指導員とで「講道館投の形」の演武を行い、又この「投の形」の理合の解説も本日私を迎えに来てくれたこの指導員と二人で実演しながら行いました。

道場で立膝をしている受講者には厳しく「立膝をしている上に人が投げ飛ばされて落ちてきて重大な事故に繋がっている。立膝を道場内で 遣ってはいけない、安座か正座にきなさい」と厳しく指導し、又履物を乱雑に脱ぎっぱなしにして道場に入ってくるのをキチンと道場の外側に揃えて脱ぐ様にも指導し、又柔道着の着方・礼法等も併せて指導しました。この柔道講習会場に来る途中シンデレラを乗せた様な馬車を車道に見かけました。（おそらく観光用なのでしょう）

関 雅夫さん (平成 23 年 4 月)



翌日の4月9日(土曜日)は、午前・午後と技の解説をフランス人の講師と一緒にやり、そして講習が終わると終了証を講習会受講者に配布しますがそれに講師の私の名前を入れてくれとの事で、モロッコ各地から集まってきた凡そ200名程の受講者の終了証書に私のサインを書き入れました。まあ偶に来る日本人柔道講師が珍しいのかも知れませんが、せがまれる内が花なのでしょう。

講習会が午後の二時頃に終了し、その後私を迎えに来てくれた柔道連盟指導員の方と車で温水プール付きのハマム(お風呂)に行きました。其の途中車の中ではコーランがなかなか美しい調べを伴って

音楽的に流れております。一日5回のお祈り運動とラマダン月のダイエット、細かい事には拘泥せず、皆で仲良く「大アッラー」にモスキー(イスラム寺院)等でお祈りを奉げて、貧しき人には喜捨、「シュ克蘭・シュ克蘭」働けない人でも何とか生きて行けます。柔道の寝技で抑えられたら、さっさと諦めて無駄な抵抗なんぞ一切しないで、即「参った」をして(勿論本人はもう駄目だと思ふのでしようが)ラグビー試合の終了の時に吹き鳴らされるノーサイドの笛と同じく「ノーサイド」(敵・味方無くなる事)握手して、時には頬の右・左と接吻して試合終了。そしてお悩みの方には此の美しい調べのコーランで精神の安定を計る等々なかなか素晴らしい社会システムを考えたと有ると思います。帰国したらお悩みの方はイスラム教へ等と誘ってみたくなる感じです。そういう私は一日5回ものお祈りは実に面倒くさいので、絶対にムスリム(イスラム教徒)にはなりません。

余談が長くなりました。ハマムに行く途中柔道連盟の此処温水プール付きハマムの近くに住んでいる方の家に立ち寄りモロッコ定番料理のクスクス等を食べてのパーティとなりました。暖かい家族の持て成しを受け、ここで少々休息して愈々此処の温水プール付きのハマムに繰り出しました。途中ハマムの中で泳ぐパンツを20ディルハム(約200円)で購入し、10ディルハム(約100円)の入浴料を払い、貴重品を預かってもらい中に入りました。すると室内の真ん中に、20メートル四方は有ろうかと思う温水プールを真ん中に三百人以上はいるのでしょうか、様々な年代の男性が此のプールを真ん中にして周りで垢掘りを遣ってもらっていたり、石鹸を付けて温水で体を流していたり、周りから温水プールに飛び込んだり、中で泳いでいたりしております。私も温水プールの中にある温水の滝を浴びさせてもらったり、プールの外から飛び込みを遣ったり、中で泳いだり、又進められる儘に石鹸を付けて温水で体を流してもらいました。中は少々蒸し暑く早めに出て一緒にハマムに行った仲間を待っていました。



ハマム終了後外に出て路上で売っている5ディルハム(約50円)のオレンジジュースで喉を潤していると、なにやら喧嘩が始まりオレンジジュースを入れる為に置いて有るガラスのコップを喧嘩の相手に投げ付けたりしております。聞く所に依ると喧嘩になると直ぐ大きな石を持ってきて投げ付けると言う様な物騒な話も数多く聞き及んでおります。熱し易く冷め易いと申しますか、この喧嘩も数分で治まりました。

翌日4月10日(日曜日)は昇段試合、大体同じ位の体重の人達とのリーグ戦とかで、昇段する為には100ポイント必要だとの事です。一本勝ちが10ポイント、優勢勝ちが技ありとか有効等で、ここでも



関 雅夫さん（平成23年4月）

ポイント差が有るとの事です。引き分けはポイントにならないとの事です。講道館の初段コースでは規定の出席日数以上出席して「投の形」の試験が通れば昇段させております。又私の所属している柔道会でも初段の受験者は試合形式の乱取りと「投の形」・礼法・受身等々で推薦してもらった受験者は大体受かっていますが、これに比べてなかなか厳しい感じです。

全体的に見た感じで言える事は、自然体の体捌きの柔道は殆ど見られず、体を前屈させた姿勢からの強引な柔道で、無理な体勢から技を施す為、しばしば怪我也散見されます。モロッコの柔道場には怪我と隣併せと申しますか、怪我が付き物の柔道で捻挫・打撲・切り傷・拘り疵に対応する救急セットが置いて有りません。流石にこの昇段試合の時の柔道試合場では医者が待機しているのですが、当日医者が一人しか居なかったので、今回の柔道講習会での怪我の応急処置用に私が持って来た救急用品も投入して怪我をした柔道試合者の処置を行いました。今回の柔道の講習会場に於いてはこれ等の疵を負った受講生の面倒を見る医者がいないので止む無く、擦り傷・打撲・捻挫等これ等処置の用品を持参して来た私がこの救急用医薬品で面倒を見ました。

昇段試合当日試合会場に居た私、日本人は珍しいのか、一応柔道の本家と言う事も有る為なのか一緒に写真を撮ってくれとせがまれる事も数多く、快く応じていた次第です。まあ、国際親善の一環かと思ひ、別に金も掛からず、時間と顔を貸しているだけですから、お安い御用です。この昇段試合終了後昨年昼食を食べに行ったお店の人と記念写真を撮った店に再び立ち寄りこの記念写真をお渡しして昼食を食べ、一路懐かしのカサブランカへ向かいました。

カサブランカに着くとモロッコ王国の旗が数多く立ち並んでおり、モロッコ王国の国王モハメッド6世がカサブランカに来ていてカサブランカに在るモハメッド6世の家の回りや近隣道路脇をモロッコ王国国旗で埋めてるとの事でした。その数多くの旗の波を横目に見て、私のアパートモンまで送ってもらって今回の柔道出張指導は幕となりました。今回も色々な事が有ってなかなか面白い第二回目のメクネス出張柔道指導の旅でした。

それでは又お便り致します。皆様お体ご自愛の上元気で過ごして下さい。敬具

カサブランカ便り「リックカフェ」

拝啓、モロッコに赴任して早一年6ヶ月以上が経ちました。今年ももう4月下旬、早いものです。

私の赴任地、ここカサブランカはハンフリー・ボガードとイングリッド・バーグマンが主演する世界の名作映画「カサブランカ」で有名な所です。1942年に制作、公開されたアメリカ映画で白黒映像ですがいいですねー!!!!!!もうかれこれ30回以上も此処カサブランカでDVDを買って見ております。台詞もかなり暗記致しました。

それからここカサブランカにはカサブランカのシンボリック的存在で21世紀最大の建築物の一つと言われている高さ約200メートルの大きな塔(ミナレット)が有るイスラム教の大寺院(グロンモスク)が北大西洋を背にして壮大に聳え立っています。中に入ると実に雄大です。イスラム教のモスクはキリスト教の教会の様にキリストが十字架に掛けられている像の様な物は一切有りません。壁等に装飾はして有りますが、中はガランとしております。何で何も無いのか？偶像崇拝禁止、何で禁止なのか？般若心経の「色即是空空即是色」に繋がるものなのか？等々疑問と興味は尽きません。イスラム教に詳しい方には是非ご教示賜りたいと思っております。

イスラム教のモスク(寺院)では、お祈りの時になると礼拝者揃ってアッラー(神)・アクバル(偉大也)と立ったり座ったり全身を使うお辞儀と共に神を讃えます。(一日五回とても良い運動です。此れにラマダン月のダイエットが加わります。さらに精神の安定・心を癒す音楽的にも美しい調べのコーランも有ります。)お祈りの時間に集合出来ない礼拝者は個別に又三々五々礼拝を行ったりもします。

関 雅夫さん（平成 23 年 4 月）

この所、日の出前にアッラー（神）への祈りを告げるアッザーンが私の日の出前眠りの浅くなる時間帯と一致している為か（アッザーンの時間は太陽の日の出前の時間変動と共に変化します。）其の音で目覚め、又少々寝て起床する様になりました。ここ赴任地カサブランカに居るとこのアッザーンの時間変動や家内とのメールの遣り取りとの時間差で地軸が傾いており、且つ地球が回っている事を肌で感じます。ムスリム（イスラム教徒）は一日五回、日の出前・日の出後・お昼・夕方・日没後にアッラー（神）・アクバル（偉大也）と神を讃えて祈りを奉げます。

さて、本題の今回の海外市民レポートは映画カサブランカの舞台となったここカサブランカに有るリックカフェに付いてレポート致します。本物はハリウッドで制作された店なのでもうこの世には存在しません。カサブランカに有るリックカフェは映画「カサブランカ」の舞台となったリックカフェを模した店です。私は聞き及んでいた此の店にその内行こうと思っておりました。

一昨日の4月23日（土曜日）・昨日24日（日曜日）と続いた出張も終わり、出張先のエルジャジダで開催されたモロッコ王国国内柔道大会会場での大観衆の前でモロッコ王国の仲間の師範と演武した講道館「古式の形」の演武も無事終了し、ほっと一息付きました。

本日2011年4月25日（月曜日）時々入って来る臨時の柔道指導依頼も有りませんでしたので、本日は此のリックカフェに行ってみる事にしました。私の赴任地カサブランカはラバトから西へ北大西洋沿いに約90キロの所に有ります。緯度が鹿児島県種子島位の緯度なのでもう日本の初夏と言っても良い様な最近の気候です。



そして、このリックカフェは七つの海（北・南太平洋、北・南大西洋、インド洋、北氷洋、南氷洋）の一つ北大西洋に面したカサポート（カサ港）に程近い所に有ります。モロッコ王国の首都が有るラバトのラバビル駅からカサポート行きの電車に乗って約一時間少々で終着駅で有るカサポート駅に到着します。このカサポート駅下車、駅前の道路を右手方向、西に向かって前記グロンモスクの有る方向にこの道をどこまでも真っ直ぐに歩く事十数分、道路の左手に大砲を三門程上部に飾って有るカフェLa Scalaが眼に飛び込んで来ます。このカフェLa Scalaを左手横目に見てさらに100メートル程歩くとリックカフェと銘打って有る高さ10メートル位の白い建物が同じく左手側に見えて来ます。その直ぐ先のT字路を左に曲がり二軒目に此のリックカフェが有ります。



リックカフェの正面は建物の間口は十メートル程でしょうか、少々小振りの入りロドアーが付いていて門番が立っております。門番にドアを開けてもらって中に入りますと奥行き約25メートル程は有るでしょうか、映画のリックカフェの様な賭博場は無く、名曲「時の過ぎ行く儘に」をしばしば演奏するピアニスト、サムの演奏していたピアノとは大

分格好が異なりますがピアノが一台置いて有ります。

お昼前に一人で行ったので、奥のバーには立ち寄らず軽めの昼食を摂りました。サーモンと野菜サラダそれにオレンジジュースとで143デルハム(約1,400円)支払いました。モロッコはフランスの元植民地だった為フランス仕込みのパンはとても美味しく又出されたバターの味も格別です。

リックカフェの中はピアニスト、サムがピアノ演奏して歌っていた雰囲気とは異なりとても静かです。日本人の客が珍しいのか「私がマスターです。」とこの店の主人の方から私に接近して来て一緒に記念写真を撮りました。中には客がお昼少々前だった為か私を含めて6人程、映画カサブランカでハンフリー・ボガード演ずるリックに思いを寄せながら静かな楽しい一時を過ごす事が出来ました。



この映画「カサブランカ」は第二次世界大戦中にアメリカのハリウッドで作られた映画です。大変有名な映画で多くの方は内容をご存知の事かと思いますが少々説明致します。頃は第二次世界大戦最中、彼の有名な独裁者(ヒューラー)ヒトラー率いるナチス独逸に併合されたオーストリア人で地下抵抗運動の大物ヴィクター・ラズローとスウェーデンから出て来た娘、イングリッド・バーグマン演ずるイルザ・ランドが知り合い地下運動の大物ヴィクター・ラズローに拘わりの有る事がナチス独逸に知れてイルザに身の危険が及ぶのを避ける為、二人は結婚している事を秘しながら夫婦となります。

その後、独逸強制収容所に収監されたラズローが脱出を計り射殺されたとの悲報がイルザにもたらされます。イルザは絶望感に浸る中アメリカ人リチャード(通称リック)とパリで出会い二人は恋に落ちます。ドイツ軍がパリに迫る中、独逸に敵対する勢力に武器を売る等して独逸のブラックリストに載っているリックは恋に落ちたイルザと一緒にマルセイユで結婚式を挙げようと二人でパリを脱出する直前、イルザの元にラズローが生きているとの連絡が入ります。

イルザはリックに知らせるとリックもパリに残り、独逸のブラックリストに載っているリックの身に危険が及ぶ事を恐れたイルザはリックとの待ち合わせの駅に行かず、イルザのアパートに迎えに行ったサムがイルザの手紙を持ってリックと待ち合わせた駅に現れます。

イルザは手紙で「貴方(リック)と一緒にいけない、理由は聞かないで下さい。」との事、止む無くリックはサムと二人だけでマルセイユに向かい、その後カサブランカでリックカフェアメリカンを経営する事となります。このリックの店にイルザとラズローと一緒にアメリカへ亡命する為、亡命手配士のウーゲーテが独逸官憲を殺害して奪った名前さえ書き込めば誰でもリスボンへ渡れる通行証をウーゲーテから買う為、ウーゲーテと待ち合わせたリックの店に現れます。そしてリックとイルザはこのリックカフェアメリカンで再会する事となります。

ウーゲーテは独逸官憲を殺した犯人と目され、待ち伏せた親独政権ヴィシー政権下のフランス警察に捕まり殺されてしまいます。しかし、ウーゲーテは捕まる直前この通行証をリックに預けます。此の通行証を巡りパリでイルザに振られたリックとイルザとの間で様々な遣り取りが有りますが最終的にはリックがイルザとラズローのアメリカへの亡命を阻もうとした独逸軍人シュトラッサー少佐を空港でリックが射殺し、イルザとラズローはリスボン経由で一緒にアメリカに亡命する事になります。リックは又カサブランカのフランス人警察署長ルノーにレジスタンスの所まで送ってもらい、その後レジスタンスに匿って貰う事となります。

リックからイルザへのこの映画で度々出て来る有名な台詞「君の瞳に乾杯!!!!!!」や、リックに思いを寄せる片思いのフランス人女性イボンヌからの「昨日どこに行ったの?」の質問にリックの「そ

関 雅夫さん（平成 23 年 4 月）

んな昔の事忘れた。」とのそっけない言葉、再びイボンヌからの「今夜会える？」との問い掛けに、リックの「そんな先の事など解らない」との突っぱねた台詞、映画「風と共に去りぬ」のテーマ音楽を彷彿とさせるピアニスト、サム・テイラーの奏でる「時の過ぎ行く儘」の名曲等々古典の名作は新しい発見が有って興味が尽きず、私にはこの白黒映像の映画「カサブランカ」を何回見ても飽きる事は有りません。

この映画には又シュトラッサー少佐以下独逸軍人・官憲がドイツ軍歌だかを歌っているのに対抗してラズローの主導でフランス国家「ラ・マルセイエーズ」を歌うシーンも見所の一つです。リックが吹奏楽団の演奏を許可し、リックカフェにいた数多くのフランス人・フランス関係者が歌った為、リックカフェはこの「ラ・マルセイエーズ」の歌で満ち溢れてしまい、ドイツ側は沈黙を余儀なくされます。

リックに片思いの恋をしていた前記フランス女性イボンヌは「ヴィブラフランス!!!!!!」（フランス万歳!!!!!!）を叫びます。此れに頭に来た独逸軍人シュトラッサー少佐はリックカフェの閉鎖を親独政権ヴィシー政権下のフランス警察カサブランカを取り仕切っているフランス人警察署長ルノーに命じます。

地下抵抗運動の秘密会合に出ていたラズローはその後フランス警察に逮捕されます。リックは殺されてしまったアメリカへの亡命手配士ウーガーテに依頼されてリックが預かった通行証をリックから取得する為に来たイルザとの話でイルザの立場を理解します。

リックの「それで今は如何なんだ？」とのイルザへの問い掛けに、イルザの「今でも貴方(リック)を愛しています。私は一度貴方から逃げたからもう逃げない。私は如何したら良いか解らない。ラズローと私と貴方、皆の事を考えて!!!!!!」との要請にリックは「アイウィル。」(承知した。)と答えます。その後、収監されているラズローを警察署長ルノーを計略に掛けてラズローを釈放させ、前記の如くイルザとラズローをアメリカへ亡命させる事となります。

大雑把な概要ですが、この映画カサブランカには色々で見所が他にも沢山あります。この映画「カサブランカ」を未だ見られていない方は是非見られる事をお勧めすると共に、モロッコの旅等でカサブランカに来られましたならこのリックカフェに立ち寄られては如何でしょうか。又新しい発見が有りましたらお便り致します。お楽しみに。

それでは皆様お元気で、「さよなら・さよなら・さよなら!!!!!!!!!!!!!!」 敬具

